

第1回三女子大学連携相互評価を終えて

2010年9月の三女子大学懇談会で話題として出された「三女子大学連携相互評価」が、実務担当者の打ち合わせを含めて3年をかけて1回目の評価を終えようとしている。相互評価実施について、その経緯と1回目の評価を終えての感想及び今後の方向性について述べたいと思う。

2010年9月に日本女子大学で開かれた三女子大学懇談会で、外部評価が話題となり、三女子大学の関心を示すところとなった。年明けには学長間で書簡を交わし、実務担当者の打ち合わせを始めることとした。その後、東日本大震災が発生し、各大学ともその対応に追われることになり、年度を改め、2011年4月に第1回目の打ち合わせ会が開かれた。大学は、自己点検・評価を改善改革へと結び付けていく内部質保証システムの構築が求められるという共通認識のもと、相互評価の話し合いが進められた。6月には、「FD活動」をテーマとすることが相互評価委員会で決定され、相互評価に関する申し合わせと実施要項についての検討も始められた。評価の質を高めるため外部の有識者を評価委員に含めることも検討された。しかし、今回は初回ということもあり、各大学から評価委員を出すこととし、2011年度末に実施要項と多少自由度をもたせた各大学の評価項目も決定された。2012年5月には相互評価結果報告書の様式なども定められ、7月に各校からFD活動についての自己点検・評価報告書が相互評価委員会に提出された。我々評価委員は、自大学以外の2校について8月下旬までに評価結果案を作成した。9月12日に、日本女子大学において、意見交換会を開催し、書面審査では不十分であった事項や事実誤認について確認し合った。意見交換会を受けて、各評価委員は評価内容の再確認を行い、評価結果（最終案）を11月初旬までに取りまとめた。今回、ご提示する評価結果は、以上のような活動を経て出された相互評価結果である。

震災を挟み、打ち合わせ段階の調整に時間がかかったため、評価を終えてみて大変であったというのが正直な感想である。しかしながら、他二女子大学の自己点検・評価報告書とその評価から学んだことの大きさから考えると、今回の相互評価が有益であったというのが実感である。今回はあくまでも試みとしてなされたものであり、是非いくつかのテーマについて三女子大学連携相互評価の実績を積み上げていきたいと思う。

最後に、3年にわたった三女子大学連携相互評価の推進を支えてくれた事務担当者に感謝をし、その労に報いたい。

2013年1月18日

三女子大学連携相互評価委員

津田塾大学 来住伸子

東京女子大学 大山淑之

日本女子大学 小山高正